

# 東南アジアにRC普及を



環境／新エネルギー

日本化学工業協会と日本レスポンス・ケア協議会(JRCO)は東南アジアでのレスポンス・ケア(RC)の普及を推進している。RC活動は、化学産業の環境・安全・健康を担保する自主的な取り組み。日本ではJRCOが「RC検証センター」を設置して活動の質を高める第三者検証も実施している。このノウハウを生かし、国際貢献の一環として専門家を東南アジア各国に派遣、実績に合わせたRC活動を根付かせる活動を行っている。現在、ベトナム、インドネシア、ミャンマーで指導を行っている。検証までの支援は、トリプルAに続き、インドネシアでも来年度完了する予定。今後、さらに多くの国に広がってほしいとしている。

## 日化協・JRCOが積極支援

日化協・JRCOの取り組みは、東南アジアでのRC活動普及を支援するのが目的。制度構築のために専門家を派遣するJRCO(日本貿易振興機構)の貿易投資日精化学援事業(JEASA)の一環として実施している。日本のRC活動システムをベトナム(意識構築)・管理・検証のノウハウなどを各国の実情に沿って直接指導、人材育成する。すでにタイは導入・管理・フェリシタは検証を含めたプログラムを行った。

現在進んでいるのは、ベトナム、インドネシア、ミャンマーの3カ国。ベトナムはベトナム化学協会(VCS)、ミャンマーはミャンマー工業協会(MIA)にそれぞれRC管理までを指導。ま

## 5カ国に専門家を派遣

### RC検証、GHSの指導も

たインドネシアについては、インドネシアRC協会に対し、来年度までに検証を含めた指導を終えることとしている。

RC活動は、国際GHS(化学品分類・表示世界調和システム)の一部と位置づけられ、日化協およびJRCOでは、GHS導入推進の観点からも、RC活動の東南アジアでの普及は不可欠としている。このため講習があれば引き続き、東南アジアでのRC活動を支援していく考え。

RC活動は、化学物質を扱う企業の開発・製造・物流・使用・最終消費を経て廃棄になる、すべての過程で自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動成果を公表、社会との対話・コミュニケーションを行う自主的な活動。日本では日化協内に組織したJRCOが推進している。また、JRCOには検証センターがあり、活動のパフォーマー、その根拠となるハットの実査に力点を置いている。

現在ベトナム、インドネシア、ミャンマーの3カ国で実施中。インドネシアではRC検証を含めた指導が来年度完了する見通しだ。

